
被虐の鬼オメイジ

出雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

被虐の鬼才メイジ

【Nコード】

N4397Z

【作者名】

出雲

【あらすじ】

二度目の転生先はゼロ魔の世界

一度は頂点に君臨した者が。。。

持ち前の能力を使って切り抜けるか？

それとも豆腐メンタルチートは潰されてしまうのか？

プロローグ(前書き)

敢えて何も言いません
序盤は暗い話です

プロローグ

? 「あ…ありのまま 今 起こった事を話すぜ!

『ピカツと光ったと思ったらFFのタイタンのように遅しいじいさんの居る真っ白な空間に居た』

な… 何を言ってるのかわからねーと思うがおれも 何が起こったのかわからなかった…
頭がどうにかなりそうだった…

催眠術だとか超スピードだとか

そんなチャチなもんじゃあ 断じてねえ
もつと恐ろしいものの 片鱗を味わったぜ…」

神 side

神 「そうか。吾輩はネ申である。名前は沢山ある。君は死んだのだ」

「ゑ れれれ冷静になれ」

神 「冷静になるのは君だよ 君は吾輩が殺した。君を生かしておくのを危険と判断した。よって違う世界に転生とする。」

ほんとは部下のミスですサーセン

「」

目の前の御霊は心当たりがあるのか絶句してしまった。

? side

思い出せない…自分の名前…家族…友人…同僚
俺は医師だった。

これはちゃんと覚えてる。
知識もちゃんとある。

だが人間関係は全て記憶から消えていた。

まずは冷静になって状況を把握しよう。

く？整理中く

「君には転生するにあたり、特別な才能を与えよう。努力次第で無限に伸びる能力、強靱な精神力、超精密妄想能力。面倒なので記憶も持ち越しとする。いつか吾輩をも超えるやもしれんな。カッカッカ」

素晴らしい神様です。私は貴方を信仰しましょうかな

「ふむ、ならばこのありがたい壺を100万円でどうだ？」

「エセ新興宗教みたいな事はやめてください。」

「カッカッカ面白いのう。ではいてらくノシ」

これが全ての発端だった。

私が生を受けた世界は

ドラゴンクエストの世界のようだった。

「貴方の名はピサロです」

見たところ魔界つまり…私は…あのピサロだろう。

ラスボスか

勇者が怖すぎる

私はその後、ピサロとして生き
ロザリーに恋し

勇者に討たれて死んだ
進化の秘宝を極めて

そのままの姿でパワーアップを図り、全力のエスターク先輩並みに
はなったが

倒しても倒してもゾンビのようにやってくる勇者になす術は無かつ
た。

そして我が人生は終わり

再び神様ルーム

神「ういゝご苦労さま」

ピ「あるえええ！？神様変わってる！」

神「前の神は君をミスで殺したから責任取って首になります。こ
れからは北 大学の神ことロベルトがこの担当です。」

ピ「あゝ細菌学の開祖様…でしたっけ？パスツールのライバルだ
ったという。」

神「そうじゃ、君をまた転生させる。能力記憶持ち越した。」

ピ「おう、わかった。助かるよ…因みにどんな世界なのですか？」

神「これだ」

神が手に持つてる漫画『ゼロの使い魔』

ピ「ピサロに転生する前の世界で高校生の時にアニメを見ていたな

あ…1000年前くらいだな。記憶訓練してたら絶対記憶的なものが身についたでござる。」

「ならば話が早い よろしいならば転生だ。容姿もそのままだから安心せい！」

暖かい光が包み込むと同時にピサロは意識を手放した。

プロローグ（後書き）

やっちまったぜ

第一章↳第1話大貴族の子（前書き）

望まれない子の誕生です

第一章 第1話 大貴族の子

「おめでとうございます！元氣な女の子ですよ」

なんか体がベタベタする…この感覚はやっぱり慣れん

タオルで拭かれ、包まれたようだ。

暖かい…

「我が子をよく見せてもらいたい。」

「は、はい！只今！」

親は貴族か…良かった良かった

親バカだと嬉しいぜ

「ん？…これは…尻尾に…獣耳？これは…なんと…事だ…大々的に発表したのに隠すわけにはいかぬが…暫く屋敷に閉じこめておかねば。」

9

今オヤジ何と行った？

明らか人間じゃないな…私は

殺されはしないのは

安心した。

「ああ…なんと…いう事でしょう…我が子が…悪夢だわ…」

父ーレイヴン・ド・マルセイユ視点

待ち望んだ我が子

期待に胸を膨らませ

始祖ブリミルに祈りを捧げながら妻の手を握る

そして遂に我が子が生まれた。

最初は天にも昇る気持ちだった。

だが私は地獄の底にたたき落とされた

我が子は耳が普通の位置に無く、犬のような耳が。おまけに尻尾がついていた。

こんなのがバレては

マルセイユ家の威信が地に落ちる

それだけは避けない

殺すのもあんなに大見得切った手前不可能だ。

地下室に軟禁して生かしておく。

社交界には帽子を被せていけば良いだろう

ふふふ… あッハハハハ

出来損ないめ…

第一章↳第1話大貴族の子（後書き）

主人公詳細

名前：フィオーレ・ピサロ・マルセイユ性別：女

ガリア貴族 マルセイユ大公家の長女

前世はピサロでチート能力持ちで記憶引き継ぎといったチート具合だが

ピサロ様は優しすぎた

容姿は、サラサラな銀髪に鳶色の瞳。

反則のふつくしさ

尻尾と狐耳があり、そのおかげで両親に良く思われていない。

豆腐メンタル

第二話〜弟誕生さらば平穩〜（前書き）

フィオーレ視点で進んでいきます

第二話〜弟誕生さらば平穩〜

私　フィオーレ・ピサロ・マルセイユは今年で5歳になりました。

見事にチートでしたとも、ええ

父や母も優しくしてくれますし。

いつも黒いハットを被ってます。

もうローブも買ってもらいましたので着ています。

3歳のころ魔法を習うように言われました。

師はとらずに父が教えてくれました。

初日で土・水はスクウェアに　火・風は……まあチート魔法あるから良いか。

要するに全く使えなかったです。

父が忌々しげに私を見たような気がするけど
気のせいでしょう。

900年くらい前：日本国民だった頃は自衛隊の医官で内科医したから臨床はお手のものです。

治癒が得意になりました！

そんなある日私に弟　シャルル・ジークフリート・マルセイユができました。

とおさまとかあさまは大層お喜びになられた。

普通の子でしかも男

私に魔法の才能があったためか、その子にも凄い期待

私は弟が出来たのが何故か嬉しくて

少し夜更かししたが寝た

私の扱いはこの日を境に急変した。

第二話〜弟誕生さらば平穩〜（後書き）

父

レイヴン・ド・マルセイユ

プライドが相当高く、名誉を一番に欲しがる。

子爵の家だったマルセイユ家を一代で大公家までにさせた。

ジョゼフの親友であり、優秀だが足元を掬われることもしばしば
平民には人気がある

カリスマだだ漏れイケメンリア充野郎

土・風のスクウエア

火のトライアングル

水のドット

母

エレゼ・オブ・オックスフォード・マルセイユ

アルビオンのオックスフォード公爵家の次女だったが、ガリアのマルセイユ家に嫁ぐ。レイヴン一直線でベタ惚れしている。

水のスクウエア

火・土・風のトライアングル

両親も規格外なのです

弟

アンリ・ジークフリート・マルセイユ

あまりというか全くフィオーレに似ていない

普通の顔

普通の普通

だがチエスは強い

シヨゼフを手こずらせる程の腕前

魔法は

火水土…×

風…ドット

フィオーレの実力を妬む。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4397z/>

被虐の鬼オメイジ

2011年12月15日02時56分発行